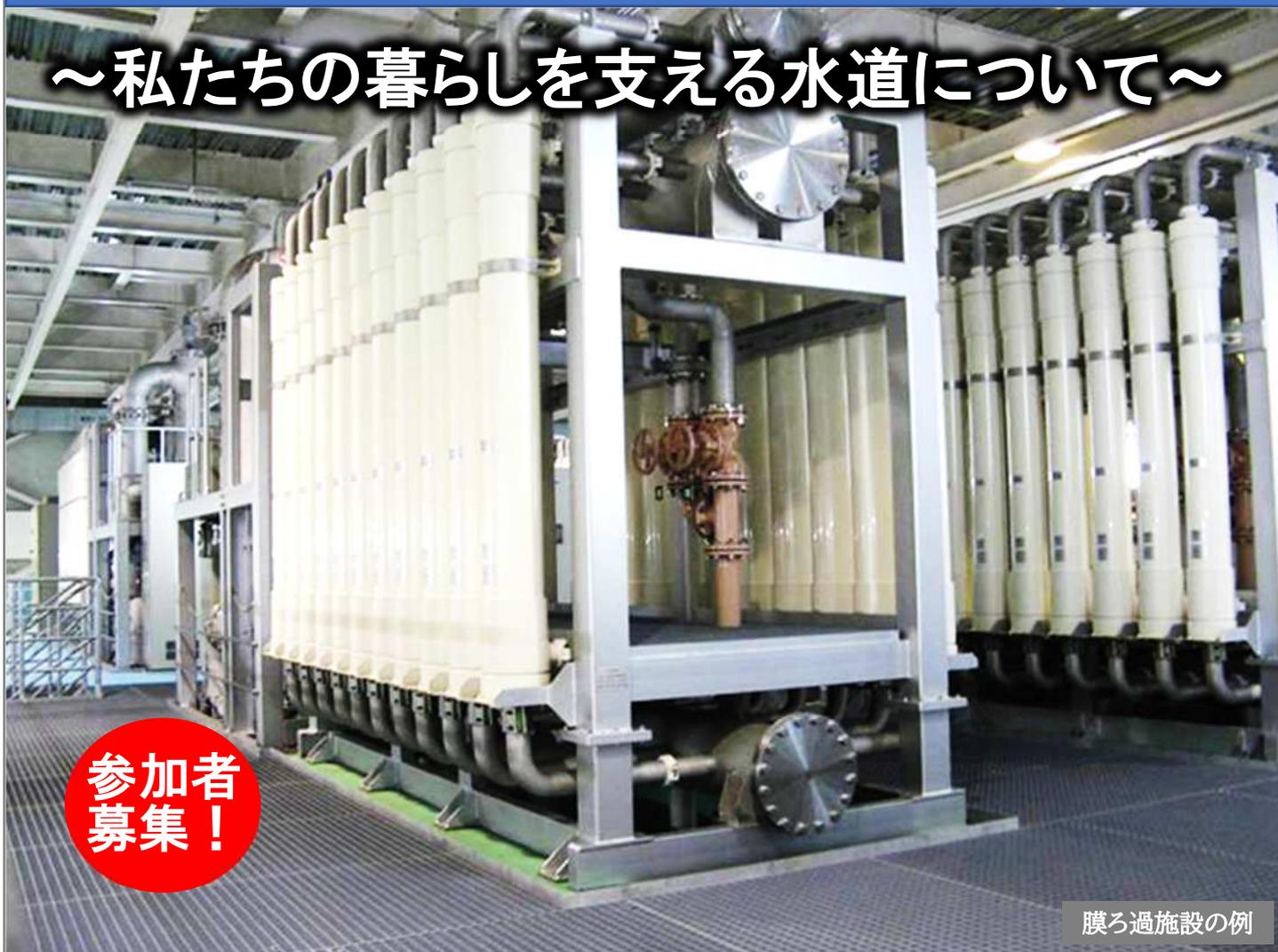


蛇口の向こう側

～私たちの暮らしを支える水道について～



参加者
募集!

膜ろ過施設の例

■命の水、ライフラインとしての水道がどのように守られ供給されているかを知る 3 回講座

- ▶ 第1回: 11月4日(土)午後2時～4時
「ライフラインとしての日本の水道」
- ▶ 第2回: 11月11日(土)午後2時～4時
「日本の浄水処理技術」
- ▶ 第3回: 11月18日(土)午後2時～4時
「大野台への水道 ～水源開発の歴史をとおして～」



■講師 富井 正雄氏

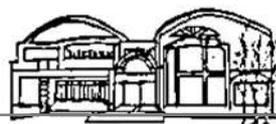
前公益財団法人水道技術研究センター技術顧問
技術士(上下水道部門)

■募集要領

- 10月3日(火)午前9時より電話または窓口で受付開始
- 先着50名●受講料 無料
- 申込・問合せ 042-755-6000
- 主催 公民館文化部

<裏面参照>

木もれびの森 大野台公民館



蛇口の向こう側

～私たちの暮らしを支える水道について～

■講座の概要

今日の社会は、水道の蛇口を捻れば安定した水が得られることが前提に成り立っており、ほとんどの家庭が「水」を水道に依存しています。命の水、ライフラインとしての水道がどのように守られ供給されているか蛇口の向こう側を知って生活に活かしていきましょう。

●第1回:「ライフラインとしての日本の水道」11月4日(土)午後2時～4時

皆さんの生活を支えるライフラインとしての水道事業がどのような仕組みで成り立っているか？水道行政、水道の種類、水質管理など安全で安心な水を供給するための水道事業の基礎的な事項をお話します。

●第2回:「日本の浄水処理技術」11月11日(金)午後2時～4時

日本の浄水場で行われている原水の水質状況に対応した主な浄水処理たる塩素消毒のみ方式、緩速ろ過、急速ろ過、高度処理、膜処理、紫外線処理等についての概要をお伝えします。

●第3回:「大野台への水道 ～水源開発の歴史をとおして～」11月18日(土)午後2時～4時

大野台地区への最初の入植者は、昭和15年。上下水道の敷設は昭和34～35年。神奈川の水源開発の歴史をとおして、一滴の水が大野台地区へ来るまでの水源から給水栓までを辿ります。



緩速ろ過池の人力砂面削り取り作業



原水の取水施設(相模大堰)

■講師のプロフィール

●富井 正雄氏

1951年長野県生まれ。1975年神奈川県内広域水道企業団奉職、浄水場長、技監(水道技術管理者)。2012年公益財団法人水道技術研究センター、浄水技術部長、技術顧問を歴任。2022年3月退職。この間、各種試験委員、日水協水道技術者研修会講師、日本水道協会や水道技術研究センター会誌編集委員、技術士(上下水道部門)

